

◎米相場の旗振り場

東寺内町付近は米の相場を知らせる中継所になっていたと伝えられています。商人の仲間が望遠鏡で前の中継所の旗を確認し、次の中継所に知らせていたそうです。電話がなかった時代に知恵を使った通信方法ですね。



堂島(大阪市)に建てられたやぐらから最初の情報が発信されました。写真出典:雑誌「郷土研究 上方」105号(昭和14年9月)

丘陵地のまち並みを歩いてみよう!



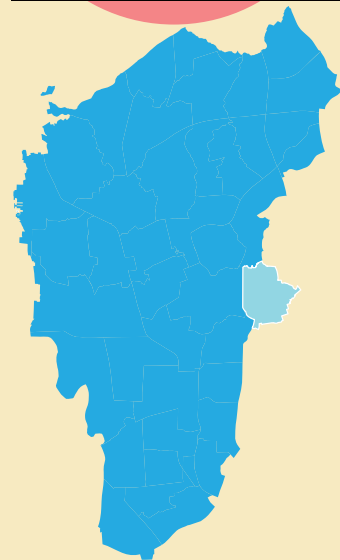
マチカネくんと歩く

まちある記

第41回 (最終回)

竹林から住宅地と公園に姿を変えたまち
寺内から東寺内町へ

寺内小学校区



東寺内町

1

高低差35メートルを利用した水力発電

① 寺内配水場(東寺内町)

市内で最も大きな配水場で、市の南部地域へ水を供給しています。ここでは、水車を使って1日で4人世帯で約230軒分の電気を発電できます。



地形を有効活用した発電方法です

寺内南公園

木々のトンネルがお出迎え

② 緑道(寺内1丁目・2丁目)

緑地公園駅と服部緑地を結ぶ道。両脇に立つ木々の葉は、まるでトンネル。緑や紅葉の彩りを楽しめます。



たくさんのお木々が行き交う人を包みます

市の東部に位置するこの地域は、昭和43年(1968)から住宅開発が進み、昭和50年には北大阪急行緑地公園駅が開業しました。以前は一面に竹林が広がり、千里丘陵に連なっていました。

火薬庫があった？

5 大阪城の焰硝蔵跡(服部緑地)

18世紀前半に徳川幕府が建設した大阪城で使う火薬の保管庫がありました。幕末の戦火を避けるために火薬を移動させた時に、物珍しさから火薬に火をつけた人が爆発の大音響に驚いて、腰を抜かしたそうです。

蔵の間にあった土手がわずかに残ります



5つの蔵の間にある土手は連続して爆発しないために造られました



◎子どもたちが仕事に挑戦

地域の子どもたちを対象に、電車の運転士や飛行機のパイロットを疑似体験できるイベントを専門学校が開催しています。平成25年(2013)から始まり毎年100人ほどが参加。子どもたちが将来の職業を疑似体験できます。



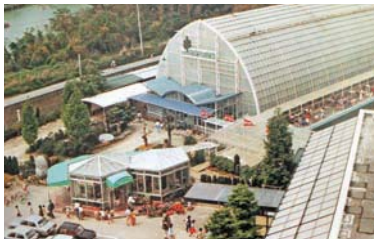
かつて関西初のサボテン公園がここに

4 サボテンを表したモニュメント(寺内1丁目)



昭和40年にオープンしたサボテン公園。メキシコやアメリカから直輸入した1,000種類1万本以上のサボテンがありました。平成3年に閉園し、今は福祉施設になりました。

「天にそびえる長大なサボテン」をイメージしています



プールも併設されていたオープン当時のサボテン公園

真珠が作られていた？

3 真珠橋(寺内1丁目)

この橋の名前は、周辺の池で真珠の養殖をしていたことに由来します。養殖は昭和40年まで行われ、採れた真珠はインドやパキスタンなどに輸出されていました。



写真奥にあるうづわ池でも真珠を養殖していました



イチョウ貝で造られた淡水真珠



◎寺内音頭

地域の人たちが中心となって、歌詞や振り付けを作ったものを昭和54年に初開催された寺内まつりで初披露。「昔タケノこすくすく伸びた」という歌詞が、この地域のかつての姿を今に伝えています。

第1回寺内まつりで披露するために練習する地域の人たち



41全ての小学校区を歩いたよ。長い間ありがとうございました。